



校訓「進歩(文)」「健康(武)」「協力(道)」

後期のスタート 「なりたい自分」に

10月11日(水)、いよいよ「後期」が始まりました。「後期」は「前期」の課題を克服し、さらに成長することで「なりたい自分」に近づく大切な時期です。特に、3年生にとっては「進路選択」という喫緊の課題にしっかりと向き合い、「進路の実現」を果たすという「人生の大きな岐路」を迎えます。1・2年生は「進級」を意識することで「成長」につなげていく大切な時期でもあります。

そんな時期を迎え、「自分の夢と現実が大きくかけ離れている」「どうしてもっと勉強しておかなかつたんだろう」「もっとしっかりした生活をしておくべきだった」「あの時、頑張っていれば・・・」など、「どうして」「もっと」という過ぎた日への後悔や、自分への諦めの言葉を口にしてしまうことがこれからあるかもしれません。

イギリスの女流作家、ジョージ・エリオットの言葉を紹介します。

It is never too late to become what you might have been.

「今からだって、なりたかった自分になれる(なるには遅くない)」

「自分は今からでも変われる」と信じ、「どうして」ではなく「どうやったら」に思考を切り替え、「なりたい自分」になるため「やるべきこと」を見つけ出し、それをひたすら実行する「後期」にしていきたいものです。「後期」もよろしく願います。

後期始業式式辞から

今日から「後期」が始まります。各学年とも、平成29年度の成果が問われる学期となります。

私は皆さんを見てみると、大学4年の時に大学病院のボランティアで出会った一人の女の子のことを思い出します。その子の名前はY子ちゃんといいます。色が白くて、目がぱっちりしたとてもかわいい女の子でした。でも、カツラをかぶっていました。何故でしょうか？

実はY子ちゃんは「脳腫瘍」という病気でした。「脳」の中にできた「腫瘍」は治療や手術をすれば治ります。でもY子ちゃんの場合は、手術で悪いところをとっても、半年もすればまた新たな腫瘍ができてしまうのです。小学校1年の時から何回も手術を受けてきました。私と出会ったのは中学2年生の時、すでに7回も手術をしていました。カツラをかぶっていたのは頭に手術の傷跡が沢山残っていたからです。

頭の手術は本人にとっても、とても大変なものです。手術の後遺症のため、Y子ちゃんは言葉と手足が少し不自由になっていました。階段は腰をついて、一段一段後ろ向きになって上らなければなりません。中学校に入学し、制服は買ったのですが、一度も制服を着て登校することができません。勿論小学校にはほとんど通学することができませんでした。手術をし、リハビリをしても、また腫瘍ができる。手術とリハビリの繰り返し。病院と家の行き来だけ。そんな毎日です。そういう生活がどんなものか皆さんは想像できるでしょうか。

私は週に2～3回病院や家に行き、Y子ちゃんと接するようになりました。ある日大学病院へ行くと、病室の外で、お母さんが本当に困り果てた顔をして立っていました。「どうかしましたか？」尋ねると「Y子がもうご飯はいらぬ。リハビリにも絶対に行かぬ。そう言っ、泣いて、駄々をこねているのよ。」と涙声で教えてくれました。寝ていてはおなかは空きません。リハビリをしても体は自分の思い通りに動きません。Y子ちゃんにとってはただ病院と家の中で過ごすだけの生活。友だちと遊びにいたり、冗談を言い合うことも無いのです。皆さんが経験する「楽しいこと」なんかほとんど無いのです。目標や目的がなければ「やる気」や「元気」が出てこないのも無理はないと思いました。「でもね、〇〇さんが来るとY子ちゃんも嬉しそうで・・・あなたの言うことはよく聞くからY子ちゃんに話してやってみて」と言われました。

さて、嫌な事から話をすればダメだと思、どんな声かけをしようか色々と考えながら病室のドアを開けました。まったく手を付けていない食事から、顔を背けるようにY子ちゃんは窓の外をぼんやり眺めていました。「Y子ちゃん、今日は」私の声を聞いて、Y子ちゃんはゆっくりとこちらに顔を向けてくれました。少し言葉を交わしてから、「Y子ちゃんは大きくなったら何になりたい。」と尋ねました。その時、「あつ、失敗した。」と思いました。もしかすればY子ちゃんにとって、夢を聞かれることは本当は辛いことかもしれないと思ったからです。

すると私の予想とは裏腹に、Y子ちゃんは「お母さんにも、誰にも言わぬでね。〇〇さんにだけ教えてあげる。」と言っ、私に自分の夢について話してくれました。Y子ちゃんの夢は、聞く側の私にとって心が切なくなるものでした。でも思い切っ、「じゃあその夢のためにも、ご飯をちゃんと食っ、元気をしっ、リハビリを頑張らなくちゃね。」そう言っ、「ご飯、〇〇さんと食っ。」と言っくれました。二人でご飯を一緒に食っながら、ニッコリ笑っ「私、リハビリに行く。」と言っくれました。

Y子ちゃんの車いすを押しながら、リハビリまでの長い長い廊下を歩いたことを今でもよく覚えています。

それから私は大学を卒業し、秋田に戻り教師になりました。2年後の夏、大学に行く機会があり、ついでにY子ちゃんの家に行ってみました。玄関のチャイムを鳴らすと、2年ぶりにお母さんの顔を見ました。少し驚いた顔のお母さんに「Y子ちゃんに会いに来ました。」言っ、「連絡しなぬでごめんなさい。あなたが卒業した夏にY子ちゃん8回目の手術をしたんだけど・・・。」もう声にならず、お母さんは泣きしっしまいました。私はY子ちゃんに二度と会うことはできませんでした。言葉が出てきませんでした。

私はこれまで皆さんに「なりたい自分」という夢をもつことを願っしてきました。でも、夢はY子ちゃんの命を救えませんでした。夢は奇跡を起こしませんでした。夢なんて何の役にも立たぬものなのではないでしょうか。

人はたくさんの宝物をもっこの世に生まれてきます。その宝物の中で、最も大切なもののひとつが「健康」です。汗を流しっ友だちと走り回ったりできるのも、食っ物を食っおいしいと感じたりできるのも、大きな声で楽しく笑えるのも「健康」だからです。私が出会っY子ちゃんには残念ながら「健康」という宝物がほんの少ししかありませんでした。でも、Y子ちゃんは精一杯自分の命を大切にしっ、最後まで頑張っったんだと思っます。

あの日、一生懸命リハビリに取り組むY子ちゃんの姿には、「なりたい自分」という夢、それは結局叶わぬ夢だったけれど、その夢が心の中にあっから、笑顔で頑張ることができたのだと私は信じたいです。Y子ちゃんも「夢あきらめぬ」で最後まで生き抜いたのだと信じたいです。

私はみんなの姿や、Y子ちゃんの姿から、夢は「前に進む力」、「立ち上がる力」、「乗り越える勇氣」だと信じているのです。3年生の皆さん。これから半年間、自分自身の力で「なりたい自分」を目指しっ進んで行かなければなりません。「現実」という大きな壁が立ちはだかり、思い通りに行かず、悩んだり、苦しんだりする時が必ずやってきます。そんな時こそ夢を、「なりたい自分」を思いしっして下さい。1・2年生の皆さん。学校はいつも楽しいことばかりではありません。嫌なことも、辛いことも、悲しいこと、悔しいことだっ沢山あるのです。そんな時こそ夢を、「なりたい自分」を思いしっして下さい。

夢そのものには奇跡を起こす力はありません。でも、夢は「前に進む力」、「立ち上がる力」、「乗り越える勇氣」を与えてくれます。そんな「夢あきらめぬ」生き方が大切であり、そんな生き方をすることで、時として奇跡が生まれるのかもしれない。そして何よりも、皆さんにはY子ちゃんが一番欲しっかった「健康」があります。「健康」が夢に向かう皆さんに「大きな力」を与えてくれるのです。

前期終業式でお話をしました。広い宇宙から見ればわずか0.2秒の人間の一生だからこそ、今というこの一瞬を大切に過ごしていきたいものです。その一瞬一瞬の積み重ねを通して、私たちは少しずつ夢に近づいていくのです。

「後期」は「勝負」の時です。各学年とも、その学年にふさわしい「本物の力」を身に付けて、来年「新たな世界」へと羽ばたく準備の時としまししょう。

「後期」もまた、全校生徒96名が健康で、元気に「なりたい自分」を目指し「チーム由利中 心ひとつに」「夢あきらめぬ」で前に進んで行きまししょう。

平成29年10月11日

由利中学校校長 ○○ ○○